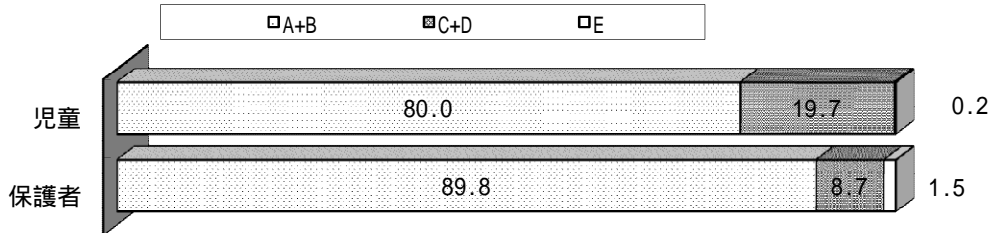


平成21年度用 学校教育自己診断 小学校（共通項目）

1. 学校の生活について

児童 学校へ行くのが楽しい。
 保護者 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない E:無回答



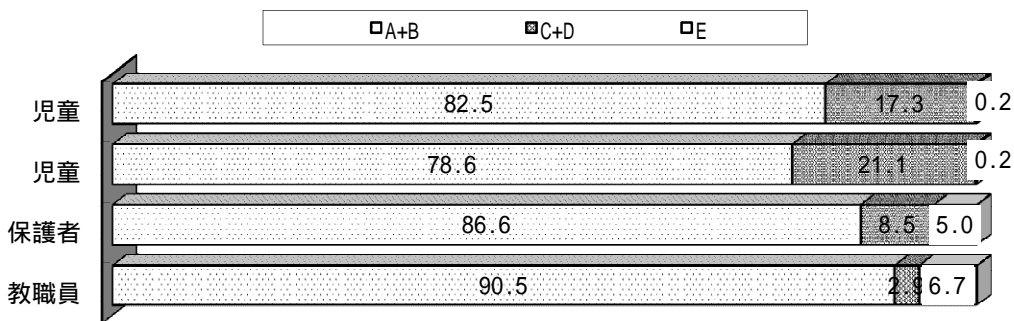
<分析>

ここ5年間のアンケート結果を見る限りでは、多くの児童が学校へ行くことに魅力を感じ、学校へ行くことを楽しみにしている。保護者も同じように肯定的に捉えていることがわかる。なお、各学校のきめの細かい多様な取組みにより、昨年度に比べ児童の肯定的回答は4.6ポイント、保護者の肯定的回答は4.0ポイント増えている。

2. 「確かな学力」の育成について

児童 授業はわかりやすい。(各教科ごとについては、学校の判断で)
 児童 外国語活動の時間は楽しい。
 保護者 先生は授業がわかりやすいように工夫しているようだ。

教職員 学校では常にわかりやすい授業を目指して工夫改善を図っている。



<分析>

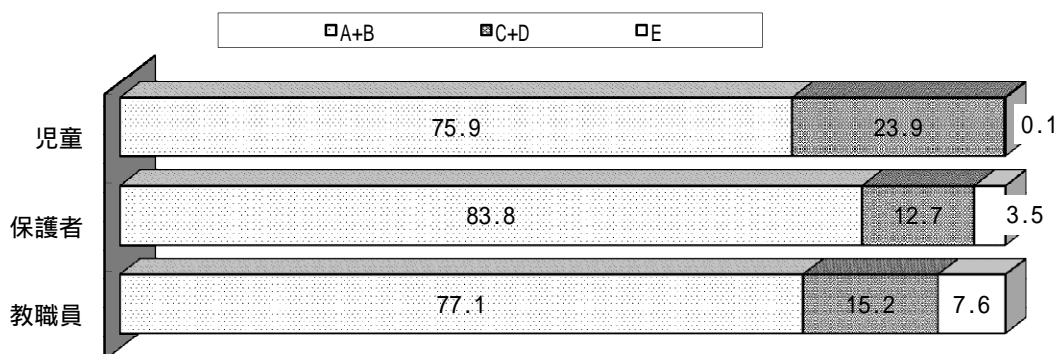
昨年度に比べ児童、保護者ともに肯定的な回答が10ポイント近く増えている。各学校ともに計画的な授業改善のための研究授業や若手教員の育成を行う等、取組の成果がアンケート結果に表れていると考える。今後も楽しくわかりやすい授業や英語活動の充実をめざし、少人数指導や習熟度別の授業改善を含め、学校全体で授業力向上のための研修等を充実させることが大切である。

3. 子どもたちに対する指導について

児童 自分がかんばったことを先生はほめてくれる。

保護者 先生は子どものことをよく理解してくれる。

教職員 この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた指導をおこなっている。



<分析>

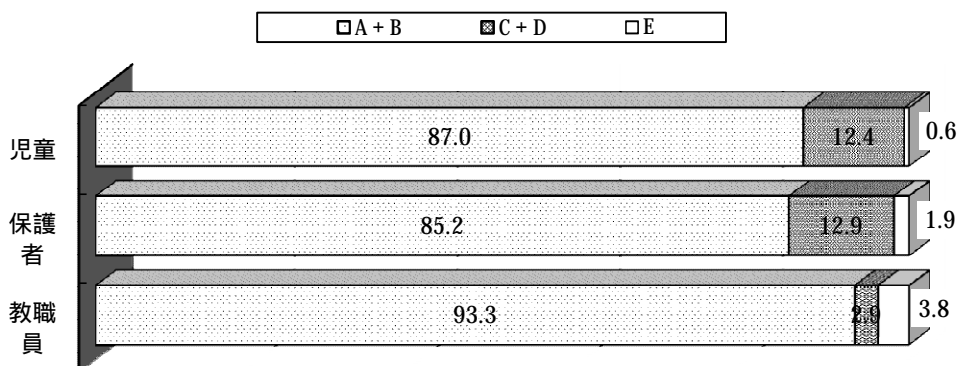
昨年度に比べ、児童の質問内容を「先生はよくほめる」から「頑張ったことをほめてくれる」に変更したことで、肯定的な回答の割合が30ポイント近く増えており、先生に認められていると感じている子どもが多いことがわかる。また、児童や保護者の認識と教職員の認識の差はなくなってきている。

4. 「心の教育」や規範意識の育成について

児童 人に対する思いやりやルールの大切さについて学校は教えてくれる。

保護者 子どもは人権の大切さや社会のルールについて分っていると思う。

教職員 学校は人権の大切さや社会のルールについて身につけるよう指導している。



<分析>

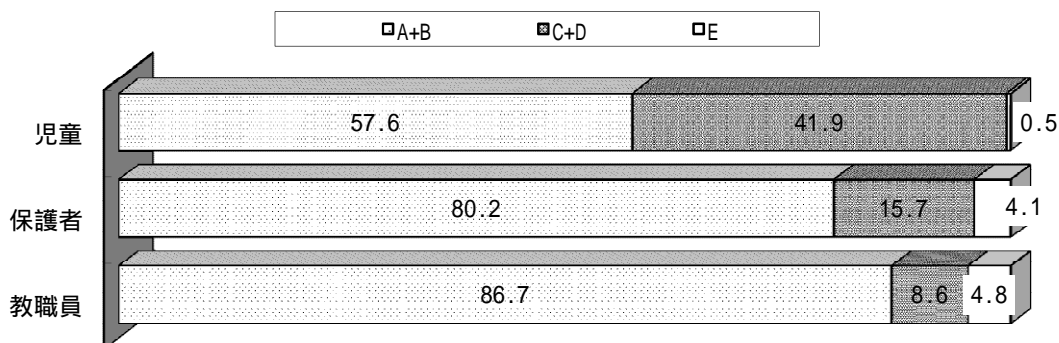
全体の9割近くの児童、保護者が肯定的な回答をしている。今までの人権教育の実践を基に、道徳教育の重要性に対する理解も高まり、推進するための研究授業への取り組み等も増えてきていると考える。今後も「道徳」の授業を学校教育活動の要として、より良い人間性や社会性の育成をめざした取り組みを充実させていくことが必要と考える。

5. 読書習慣について

児童 読書をよくする。(マンガ以外の)

保護者 学校は、子どもに読書の習慣がつくよう学校図書館の活用や整備をよくしてくれている。

教職員 学校では、子どもの読書習慣の定着に向けた取組を重点的におこなっている。



<分析>

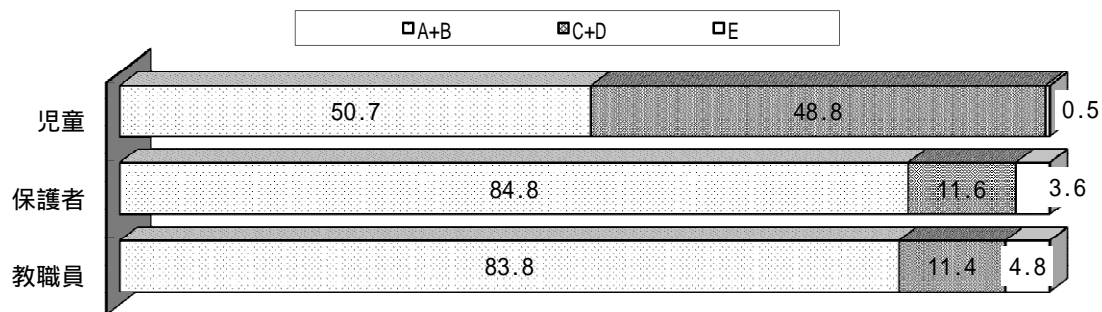
児童の肯定的な回答の割合が低い。全国学力・学習状況調査のアンケート結果においても一日に30分以上読書をする児童の割合が全国に比べ低い状況が見られる。今後読書指導につながる授業づくりや、学校図書館、町立図書館の有効的な活用等を組み込んだ授業形態等を研究推進していく必要がある。また、地域ボランティアの活用や図書委員会活動の充実等、学校全体での組織的な取組を進めていくことが求められている。

6. 学校の環境整備について

児童 教室はゴミがなくきれいだと思う。

保護者 教室は整理整頓がなされていてきれいだと思う。

教職員 教室は常にきれいな状態にしようと心がけている。



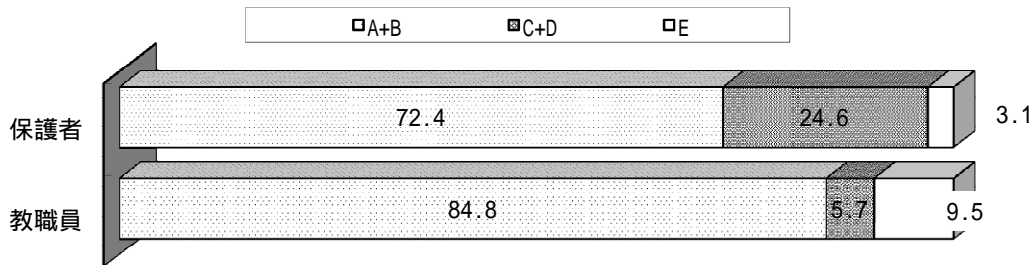
<分析>

保護者や教職員の肯定的な回答は8割を超えるが、児童の肯定的回答の割合は低い。今後も教室の「整理整頓」や「清掃活動」について日々の指導の充実を図るとともに、落ち着いて学習に取り組める環境づくりについて継続的に取り組んでいく必要がある。

7. 学校の通知表について

保護者 通知表はよくわかる。

教職員 この学校の通知表は、児童・保護者にわかりやすく、適切な評価が行われている。



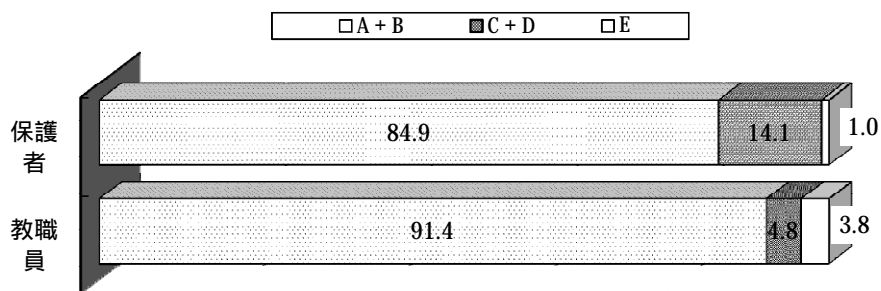
<分析>

保護者の肯定的な回答の割合は7割を超えており、概ね理解されているものの、保護者と教職員の意識に若干の差がある。今後、各学校とも評価方法等の研究が進められるとともに適切な学習評価、保護者にとって分かりやすい通知表のあり方等のさらなる研究推進が求められている。

8. 学校の情報発信について

保護者 お便りなどで学校のことがよくわかる。

教職員 学校では危機対応の情報も含め、保護者や地域に対して情報発信を心がけている。



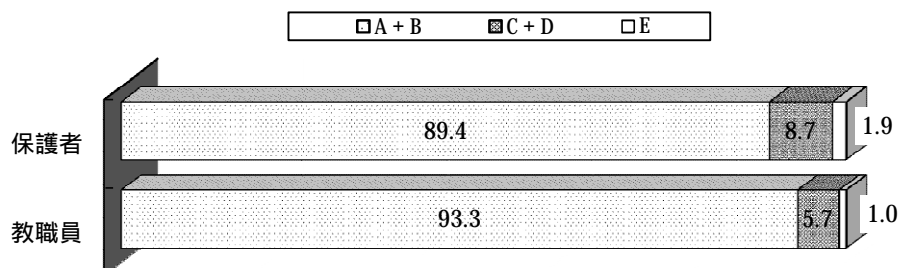
<分析>

各学校とも自校の教育活動の内容を広く保護者や地域に発信することに努めている。その周知についても、多くの保護者から肯定的な回答を得ていることで概ね良好であると考えられる。

9. 保護者や地域との連携について

保護者 学校は、保護者や地域の人たちに授業を公開したり、つながりを深める機会を多く設けている。

教職員 この学校は、様々な学校教育活動に対し保護者や地域の方がたの協力や連携が図られるよう努めている。



<分析>

保護者の肯定的な回答の割合が9割近くと高い。各学校とも積極的に授業公開を行う等、開かれた学校づくりに努めている。それとともに学校協議会や地域の各関係団体とも連携を図りながら、学校と保護者、地域が一体となった教育活動が展開できている。

下線部分は文言の変更又は、新しく加えたものです。